

R8.9.29 研修参加者アンケートのまとめ

A:本日の研修で印象に残ったこと・内容をご記入ください。

1. 子どもの視点に立って理解することの大切さ

- ・実際に遊びや活動を体験することで、子どもが感じる困り感や難しさを理解できた。
- ・大人の価値観ではなく、子どもの立場や気持ちに共感しながら関わることの重要性を学んだ。

2. 一人一人の発達や特性に合わせた支援

- ・「みんな同じ」ではなく、それぞれの能力や発達段階に応じた課題設定が大切であると感じた。
- ・子どもが自分に合った方法を選択し、自ら考えて行動できるように支援することが必要だと学んだ。

3. 環境構成と遊びの工夫

- ・保育者が手伝って達成させるのではなく、子ども自身が「できた」と実感できる環境づくりが重要だと分かった。
- ・難易度を調整できる遊びや、一つの教材で多様な活動ができる工夫の大切さを学んだ。

4. 姿勢や感覚への理解

- ・「正しい姿勢」にこだわるのではなく、その子が集中しやすく楽に過ごせる姿勢を考えることが大切だと気付いた。
- ・座り方や感覚の特性には個人差があり、その背景を理解して支援する必要があると学んだ。

5. 遊びや運動を通した実践的な支援

- ・実際の玩具や遊びを体験しながら学ぶことで、講義内容への理解が深まった。
- ・運動は上手にさせることよりも「楽しい」「挑戦したい」と思えることが大切であり、その子に合った成功体験や挑戦の機会を保障することの重要性を学んだ。

B:本日の学びや気づきを生かし、今後どのように取り組もうと思われますか。

1. 一人一人の発達や特性に応じた支援・合理的配慮

- ・子どもの能力や発達、特性に応じた活動や支援を行い、個々が「できた」「楽しい」を感じられるようにしたい。
- ・子どもの困り感を把握し、共感的理解を基に合理的配慮を行い、多様性を大切にしながら援助していきたい。

2. 運動遊びの実践と活動への活用

- ・手押し相撲や輪くぐり、体幹遊びなど、様々な運動遊びを日々の保育や教育に取り入れていきたい。
- ・研修で体験した遊びを、クラス活動や自立活動、親子活動などに活用したい。

3. 子どもの視点に立った理解と支援

- ・子どもの困り感や気持ちに共感し、様々な方法や選択肢を用意し、本人にとって意味のある支援につなげていきたい。
- ・疑問に思った行動は自分でも体験し、子どもの立場から理解することを大切にしていきたい。

4. 環境や教材の工夫

- ・発達の土台となる力に着目し、自分の力で取り組める環境を工夫していきたい。
- ・発達に応じた素材や方法を複数準備し、誰もが参加しやすい環境を整えていきたい。

5. 前向きに挑戦できる保育

- ・できないことを無理に努力させるのではなく、「ほどよい挑戦」を意識し、子どもが楽しく意欲的に取り組めるよう支援していきたい。
- ・多様性を尊重しながら、一人一人にとって意味のある成長の機会をつくっていきたい。